

標 題 : Diet and Alzheimer's disease
食事とアルツハイマー病

著 者 : J. A. Luchsinger, et al. (米国 コロンビア大学
アルツハイマー病および加齢脳研究の Taub 研究所)

掲 載 誌 : Current Neurology and Neuroscience Reports 7: 366-372 (2007)

要 旨 :

アルツハイマー病(AD)は有病率が増加している。

既知の予防手段も治療手段もない。

酸化ストレス、ホモシステイン関連ビタミン、脂肪、およびアルコールがアルツハイマー病の原因に関与するとの証拠がある。

抗酸化物、ビタミン B6、B12 と葉酸、不飽和脂肪酸、および魚の高い食事摂取はアルツハイマー病の低いリスクと関連すると、一部の疫学研究は示唆するが、報告は一致していない。

アルコール特にワインの少量から中程度の摂取は、アルツハイマー病の低いリスクと関連する可能性がある。

地中海食事もアルツハイマー病の低いリスクと関連する可能性がある。

しかし、ビタミン E、B12、B6、および葉酸のサプリメントのランダム臨床試験は認知の効能を示さないで、アルツハイマー病に関する他の栄養素または食事についてのランダム試験は入手できない。

アルツハイマー病予防のために特定のサプリメント、食品、または食事を推奨することを、現存する証拠は裏付けていない。
